

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K21628

研究課題名（和文）アジアの文字研究を対象とした、「字形」研究基盤の構築

研究課題名（英文）Construction of Method of Studies on Scripts in Asia

研究代表者

荒川 慎太郎（Arakawa, Shintaro）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：10361734

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：言語学の諸分野の中でも、研究が進んでいるとは言えない「文字学・文字論」を扱った。文字に関する研究は「字形」「字音」「字義」の三分野に大別されるものの実は「字形」に関して漢字以外の文字からのアプローチは少なかった。本研究では西夏文字・インド系文字・ヒエログリフなどの観点から、特に「字形」の研究基盤となる「研究術語」と概念に関する研究を進めた。近々「文字研究術語集」の形で公開できるように、整備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語学の諸分野の中でも、研究が進んでいるとは言えない「文字学・文字論」を進展させることに学術的な意義があった。本研究では、意図的にタイプの異なる文字体系、つまり西夏文字・インド系文字・ヒエログリフの研究者を参集させ、特に「字形」の研究基盤となる「研究術語」と概念に関して討議し、研究を進めた。一般公開ワークショップ、一般向け企画展示などにも研究成果を反映させた。

研究成果の概要（英文）：Among various fields of linguistics, we dealt with “study of script and letters,” in which research was not advanced. Although the study on scripts was roughly divided into three fields of “form (shape),” “pronunciation,” and “meaning,” there were few approaches to “form (shape),” from characters other than Kanji. In this study, from the viewpoint of Tangut script, Indic scripts, hieroglyphs, etc., we advanced the research on terminology and concepts, which are the research basis of “form (shape)” in particular. Now we prepare “a comprehensive glossary of terminology for the study scripts.”

研究分野：西夏文字

キーワード：言語学 文字学 文字論 字形 筆画

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景には、言語学の研究所分野の内、「文字学・文字論」における研究基盤の脆弱さがあった。例えば、国内外における「世界の文字を解説する書物の最高峰」、『言語学大辞典 世界文字辞典』（河野他編、三省堂、2001）においてすら、「文字研究における術語の未整備の問題があり、ある術語を用いて共通の基盤に立って議論を進めていくことが、まだ十分にできない」「将来、文字研究のための『術語編』を刊行できるときがくるとすれば...中略...文字の学問が成立しているときであろう」（ともに序 p. iii より）と、文字研究基盤の脆弱さが指摘されていた。そして同書の刊行から約20年となるが、『文字研究術語編』は未だ刊行をみていなかった。

文字学・文字論の研究の中でも、特に「字形」そのものの研究は立ち遅れており、国内に研究者も多いとはいえなかった。幸い本課題では、一次資料となる文字文献の読解能力と、字形学への関心のある分担者が国内において招集できたので、原書・原典の子細な観察に基づく研究が可能となっていた。挑戦的研究の意義として、これまでに無い、字形学研究基盤の構築が挙げられた。

2. 研究の目的

言語学諸分野の中でも「文字学・文字論」は、音声言語の研究に比べて二次的な扱いであったためもあり、研究が遅れていた。本研究の目的は、文字学・文字論のうち、さらに未開拓の分野といえる、「字形に関する研究」の研究基盤を構築することであった。

具体的には、代表者・分担者の専門とする、西夏文字・インド系文字・古代エジプト文字（それぞれ文字類型、シラバリー・アブギダ・子音文字～表語文字～限定符の混合型という例）の個別研究で得た知見を通して、字形研究の術語・概念を整備し、『字形研究術語集』の形にまとめて公開するというものである（数十項目を予定。右は項目のサンプル）。

線の長短による弁別性 (Distinction by length of stroke)
線の相対的な長さの差異によって、字形、あるいはその構成要素が異なるものとして認められること。

例：漢字の「吉」と「吉」は同じ意味を表す異体字だが、「土」と「土」は上下に位置する横棒の長さによって異なる文字と認定される。西夏文字の一部の偏は、微細な長さの差異によって弁別される。

𐰃 (1,2画目の長さが同じ) 𐰄 (1画目より2画目が長い)
タイ文字には ꨣꨣꨣ、ꨣꨣꨣ のような例がある。

3. 研究の方法

(1) 系統・タイプの異なる文字の研究

代表者の専門とする「西夏文字」は、字形・構造が複雑であり、漢字とは異なる筆画を持つなどの点で、字形研究に有益な対象といえる。研究分担者澤田英夫の専門とする「東南アジア大陸部のインド系文字」、同永井正勝の専門とする「古代エジプト文字」も、字形・構造の研究に課題を有する。あえて系統・タイプの異なる諸文字を調査・分析することにより、字形研究における様々なテーマの術語項目の選定と、豊富な例を伴う解説が期待できる。

(2) 国内共同研究プロジェクトの利活用

日本国内には、アジアの古今の文字（インド系文字、楔形文字、甲骨文字、契丹文字など）に造詣の深い言語系研究者が数多く存在する。そこで 10 名程度の研究者を集め、代表者荒川が主査となって、所属機関における共同研究プロジェクトを実施している（2017～2019 年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築 1：文字学に関する用語・概念の研究」及び 2020～2022 年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2) 文字学に関する既存術語の再検討」。研究分担者 2 名も共同研究員）。これらの研究会、メンバーとの研究討議も、本研究に活用した。

(3) 資料の精査、現地における実見調査

既存の図録やインターネットの画像などを鵜呑みにすることなく、原文の子細な観察を行なうためという、本研究の趣旨から、海外渡航と原文の実見調査は不可欠であった。具体的には、代表者のロシア渡航（サンクトペテルブルクの東洋文献研究所で西夏文字字典『同音』調査）、分担者澤田のカンボジア・ミャンマー等渡航（各地でクメール碑文、モン語碑文他調査）、分担者永井の英国渡航（大英博物館でパピルス写本調査）であり、当初、本課題の研究費の大半を占める外国旅費を使用する予定であった。

(4) 図録による研究、術語に関する討議、一般への研究成果還元

(3)は周知のように、新型コロナウイルスの影響により、初年度の調査を除くと実施が不可能となった。代表者・分担者ともに渡航断念を余儀なくされ、図録（代表者の場合、『俄蔵黒水城文献』（西夏文部分）など）や過去の調査記録に基づく研究を行うこととなった。文献、原文の精査は、本課題後継のプロジェクトなどで、捲土重来を期したい。

応募者・分担者が研究で得た知見を、文字の例と共に「術語」項目として執筆し、整理するため、メール審議で内容を相互に確認しあった。

現地調査に基づく研究、データベース化作業の-effortは、一般への研究成果還元という形に振り替えることとした。

4. 研究成果

2017～2019 年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築 1：文字学に関する用語・概念の研究」及び 2020～2022 年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)

文字学に関する既存術語の再検討」の成果物としても『字形研究術語集』の刊行を予定している。ここではそれ以外の研究成果として、特筆すべきものを挙げる。

(1) 日本漢字学会におけるシンポジウムとその成果刊行物の 1 章

2019 年 12 月 1 日、日本漢字学会第 2 回研究大会において「字体と造字法の創造力 漢字文化圏の周辺部より問う」と題し、中国南方漢字、ベトナムのチュノム、日本製漢字など、漢字周縁の文字群から見た造字法に関する、ユニークなシンポジウムが開催された（荒川 2019）。その後本企画は、日本漢字学会の後援も得て、書籍化されることとなり、代表者も 1 章を担当した（日本漢字学会編 2022）。字形研究の観点からも、西夏文字について有益な情報を提示できた。

(2) アジアの古代文字に関する展示会とパンフレットの編集刊行

2020 年度に開催する予定だったものの新型コロナウイルスの影響で延期となっていた、企画展示「解読！アジアの古代文字（2021）」を、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1 階展示室で、感染症対策を講じて実施した（2021/11/11-24）。代表者が編集した展示品解説パンフレット（荒川・本田編 2021）には分担者 2 名も執筆し、最新の研究を披歴した。

(3) アジアの古代文字に関する展示会とパンフレットの編集刊行

本課題と関わりのある、アジア・アフリカ言語文化研究所既形成拠点 GICAS 及び上記共同研究プロジェクトと共催で、一般公開オンラインワークショップ「アジア文字研究術語の再検討」も実施した（2022/3/5）。代表者・分担者 2 名が登壇し、最新の文字研究を紹介した。

(4) 個人研究の深化

代表者・分担者 2 名それぞれの研究も深化させた。代表者荒川は西夏文字の筆画、造字法、構成要素に関する研究を進めた（荒川 2019, 2020ab, 2021ab, 2022ab など）。分担者澤田はインド系文字の研究を進めるとともに、過去のオンラインリソースの整備も行った（澤田 2021ab など）。分担者永井もエジプト文字に関する研究（永井 2021 など）、その研究のための術語の考察を進めた。

さらに、『文字研究術語編』刊行の暁には、「字形研究」部門の重要な項目が満たされることが期待できる。研究成果は「文字認識」など実用分野への応用・貢献も期待される。

参考文献

- 荒川慎太郎 2019 「西夏文字の「部首」と造字法」『日本漢字学会第 2 回研究大会予稿集』: 163-168
- ____ 2020a 「西夏文字の、ある「5 画」部首の再分類」『日本言語学会第 160 回大会予稿集』: 14-20
- ____ 2020b 「西夏文字における「点」の出現環境と機能」『日本言語学会第 161 回大会予稿集』: 120-126
- ____ 2021a 「西夏文字研究と『西夏國書字典音同』の再検討」荒川・本田編『解読！アジアの古代文字（2021）』パンフレット，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所: 11
- ____ 2021b 「西夏文字の、「最終画が跳ね上がる繞」について」『日本漢字学会第 4 回研究大会予稿集』: 41-52
- ____ 2022a 「西夏文字の「部首」と造字法」日本漢字学会編『漢字系文字の世界 - 字体と造字法』，花鳥社: 90-108
- ____ 2022b 「西夏文字の「底部右端が跳ね上がる繞」について」『日本漢字學會報』第 4 号:（印刷中：2022.6 刊行予定）
- 荒川慎太郎・本田直美 2021 『解読！アジアの古代文字（2021）』パンフレット，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 永井正勝 2021 「近年のエジプト文字研究」荒川・本田編『解読！アジアの古代文字（2021）』パンフレット，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所: 15
- 日本漢字学会編（編集主幹 吉川雅之）2022 『漢字系文字の世界—字体と造字法—』，花鳥社
- 澤田英夫 2021a 「ピュー文字研究の再前線」荒川・本田編『解読！アジアの古代文字（2021）』パ

ンフレット, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所: 15
____2021b 「ビルマ文字のローマ字転写方式 (澤田式) ver.2」 (9pp.)

URL: <http://www.aa.tufs.ac.jp/~sawadah/burroman2.pdf>

メタデータページ:

<https://online-resources.aa-ken.jp/resources/detail/IOR000125>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 疑似漢字	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア文化講座2 漢字を使った文化はどうひろがっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏	6. 最初と最後の頁 96-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 39-4
2. 論文標題 西夏の年号 - 西夏文字と西夏語の表現を中心に - ,	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 66-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 西夏文字における「点」の出現環境と機能	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本言語学会第161回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 120-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 西夏文字の、ある「5画」部首の再分類	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本言語学会第160回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 213
2. 論文標題 西夏文字について - 「部首」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國語國字	6. 最初と最後の頁 14-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 中央アジアの文字 系統と類型	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沙漠学事典	6. 最初と最後の頁 162-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 「沙漠」を表す文字	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沙漠学事典	6. 最初と最後の頁 446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川 慎太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 西夏文字	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沙漠学事典	6. 最初と最後の頁 168-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川慎太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 西夏文字の「部首」と造字法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本漢字学会第2回研究大会予稿集	6. 最初と最後の頁 163-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川慎太郎	4. 巻 4
2. 論文標題 西夏文字の「底部右端が跳ね上がる繞」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本漢字學會報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字の、いくつかの「偏」に関する再分析
3. 学会等名 「ユーラシア言語研究 最新の報告」2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Arakawa Shintaro
2. 発表標題 Re-analysis of a particular element of Tangut scripts
3. 学会等名 RENCONTRES DE TANGOUTOLOGIE 2 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字における「点」の出現環境と機能
3. 学会等名 日本言語学会第161回大会, 日本言語学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字の「字数」について
3. 学会等名 AA研共同利用・研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)-文字学に関する既存術語の再検討」2020年度第2回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤田 英夫
2. 発表標題 東南アジアインド系文字の音価に関する問題
3. 学会等名 AA研共同利用・研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)-文字学に関する既存術語の再検討」2020年度第2回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Arakawa Shintaro
2. 発表標題 The re-analysis of the Tangut directional prefix “2rl:r-”
3. 学会等名 第三屆中研語言學論壇 漢藏語言比較研究的回顧與前瞻（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字のとある5画部首の再考と再検討
3. 学会等名 AA研共同利用・研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)-文字学に関する既存術語の再検討」2020年度第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字の、ある「5画」部首の再分類
3. 学会等名 日本言語学会第160回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒川慎太郎
2. 発表標題 西夏文字の「部首」と造字法
3. 学会等名 日本漢字学会第2回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒川慎太郎
2. 発表標題 日本西夏学の回顧と展望
3. 学会等名 第六屆西夏学國際學術論壇（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ARAKAWA Shintaro
2. 発表標題 The Tangut Scrolls in Japan
3. 学会等名 First International Conference Oriental Manuscripts: Codicology and Conservation Issues (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 最近の西夏文字研究から 字形と筆画の考察を中心に
3. 学会等名 京都大学言語学懇話会第115回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字の、「最終画が跳ね上がる繞」について
3. 学会等名 日本漢字学会第2回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字の「偏旁」の特徴について
3. 学会等名 「ユーラシア言語研究 最新の報告」2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒川 慎太郎
2. 発表標題 西夏文字研究のための術語を考える
3. 学会等名 オンライン公開ワークショップ「アジア文字研究術語の再検討」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田 英夫
2. 発表標題 ビルマ文字の表音単位再考
3. 学会等名 オンライン公開ワークショップ「アジア文字研究術語の再検討」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永井 正勝
2. 発表標題 古代エジプト文字研究のための術語を考える
3. 学会等名 オンライン公開ワークショップ「アジア文字研究術語の再検討」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 日本漢字学会、吉川 雅之、荒川 慎太郎、笹原 宏之、清水 政明、蘇 柳朱、矢田 勉、山下 真里	4. 発行年 2022年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 184
3. 書名 漢字系文字の世界	

1. 著者名 荒川慎太郎・本田直美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 16
3. 書名 『解説！アジアの古代文字（2021）』パンフレット	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	澤田 英夫 (SAWADA HIDEO) (60282779)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	
研究分担者	永井 正勝 (NAGAI MASAKATSU) (70578369)	東京大学・附属図書館・特任准教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------